

「向きを変えて出発せよ」

～マイナスをより良く～

申命記 1 : 5 ~ 8

私たちの人生・・・

私たちの歩みを振り返ってみましょう。願った通りになってきたでしょうか。そして願っていることが現実となるためにどんなことをしていますか。良く考えてみると私たちは願いが適うまで待っているだけになっていることに気がつくと思います。童謡に「待ちぼうけ」というものがあります。これは偶然切り株にぶつかって得たうさぎに味をしめて、自分の本来の仕事である農作業をほったらかしにして待ち続けてしまい、最終的には収穫することが困難なほど荒れ果てた畑になってしまったという内容になっています。この内容を知ればこの農夫は間違ったこととして分かりますが、私たちの人生の中でもこのような「棚からぼた餅」のような暮らしをしていることはないでしょうか。教会に来ている私たちの人生は棚からぼた餅のような人生ではなくて、周りにいる人々に自分の得た恵みをお届けする人生へとだんだんと変えられていっていると思えます。私たちが自らの努力によって得たものではなく、神様から与えられたものであると感謝するようになって行く時、自然と周りの人に流せるようになっていけると思えます。しかし私たちは感謝を忘れてしまうと、自らを新しく変化させ周りの人々に流そうとすることができにくくなります。良いことをしなくなると私たちの中では変化がいらなくなるのです。だからこそ、与えられている環境、物事、人間関係などに感謝をしていく必要があるのです。

向きを変えて出発せよ！

「(申命記 1 : 6 ~ 7) 私たちの神、【主】は、ホレブで私たちに告げて仰せられた。「あなたがたはこの山に長くどどまっていた。向きを変えて、出発せよ。」と言われているのです。私たちは向きを変えて進んでいくためには、自らの古い生き方では出発して今までと同じ歩みをするようになるのです。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるようなものです。「(マタ 9 : 22) また、人は新しいぶどう酒を古い皮袋に入れるようなことはしません。そんなことをすれば、皮袋は裂けて、ぶどう酒が流れ出てしまい、皮袋もだめになってしまいます。新しいぶどう酒を新しい皮袋に入れれば、両方とも保ちます。」私たちは今までの築き上げてきたものではなく、神様の用意する新しい地に向かって新しい歩み方で行きなさいと伝えているのです。しかし私たちはなかなか踏み出すことができないのです。今まででもこれをしてきたから・・・とか、失敗したらどうしよう・・・などいろいろ考えてしまい、今いるところで留まってしまっているのです。留まっていると私たちは誘惑に合いやすくなるのです。危険なことは「平凡」や「安定」という言葉や「まあそこそこ」で良いじゃないかという言葉は私たちが「ダメ」に変えていきます。なぜ「ダメ」なのでしょう。それは自分を変化させないからです。向きを変えなくても良くなるからです。私たちは努力もしなくなり、明日を夢見る必要もなくなり、そのまま良くなるからです。そして古い生き方では周りと比較があり、それは優越感と劣等感の中で自分を保とうとしていきます。潜在的に渴いているのです。周りにあるものでは満足せず、奪い合いながら生きていくことになってしまいます。今日、神様はどのように向きを変えるように言っているのかというと、「今あるマイナスをより良く」するように言っているだけなのです。私たちは今あるものがなくなると不平が募ります。時には不平が爆発してしまうこともあります。でも私たちはその不平(マイナス)を見つけたら、より良くしていくことが向きを変えて出発することであると言っているのです。

①主に向く！

私たちは主に向く必要があります。しかし私たちは不足に目を向けがちです。そして文句を言っている人生になっていないでしょうか。私たちは文句を言うことが当たり前になってしまいました。昔のイスラエルの人々も何か不平不満があれば、神様におつれるようにしていました。自分たちのほしいうまに生きていくために。今の私たちはどのように歩いていくことができるでしょうか。そのようにほしいうまに振舞ってしまう人たちに主に向く生き方とはどのようなものかを示していく必要があるのです。(II コリ 3 : 15 ~ 18) 私たちが主に向こうとすると、邪魔する覆いは「自分のルール」「価値観」「常識」と言われているものです。子育て1つにしてもこの「自分のルール」に従ってしています。その自分のルールが聖書的な価値観にな

るために教会に来て、多くの人から学んでいく必要があるのです。それが無い場合は、聖書の価値観になることは難しいことです。私たちが今まで生きていく中で築いてしまったものを変化させていこうとするには、「主に向く」ことでしかできません。今までの生き方を覆すことをしているのです。正しいことを知り、自分と向き合いながら進んでいく、それが主に向くことなのです。希望がない人たちは「できない」といつてあきらめてしまいがちです。教会に集っている人々はその時こそ、互いに支えあい、自分の役割を知りながら、希望をもって主に向こうとするのです。

②神様を知り、始めて悪に打ち勝つ

悪魔が誘惑してくる時、ベストフレンドのようなふりをしてやってきます。私たちの最大の理解者のようかもしれません。弱さを理解して妥協するような言葉によって誘惑してくるかもしれません。そして誘惑した方に向かわせますが、責任は負ってくれません。選択したのは人であるかのように逃げていきます。エデンの園でアダムとエバを誘惑した時のようです。私たちは誘惑された後、感情によって決断していることが多いと思います。人は感情によって決断するようには造られていません。私たちの意志によって決断するように造られています。ですから多くの失敗というのは感情的な決断をした時ではないのでしょうか。私たちはこのような正しくない決断をすることがないようにするために教会に来ているのです。私たちは隣人が良くなってほしいので、いろいろと助言、アドバイスをします。私たちが聞きやすいこともあれば、なかなか受け入れがたいこともあります。しかしそのままでは向きを変えて出発できないのでそのようにするのです。悪いものに打ち勝つていくには正しいことをしていくしかないのです。「悪に負けてはいけません。かえって、善をもって悪に打ち勝ちなさい。(ローマ 12 : 21)」だからです。

③より良くする為には心の中の声を見張る

私たちはより良くするために心の中に語りかけてくる声を聞き分け、正しいことなの、間違っていることなのかを判断しなければなりません。今まで生きてきた中でいつもその声に従ってきているので油断をするとそちらに傾いてしまいます。ですからいつも見張っている必要があるのです。「箴言 13 : 3) 自分の口を見張る者は自分のいのちを守り、くちびるを大きく開く者には滅びが来る。」心を見張ることも大切ですが、私たちの口から出る言葉にも見張りが必要なのです。また、私たちは言葉以外にも表情や仕草によっても心の様子が出てしまう時もあります。今日は、「心」以外にも見張りをしながら歩んでいきましょう。それは私たちに神様の用意している将来と希望があるからなのです。しかし悪魔はそれを受け取ってほしくないために、日頃から違う方向へ行かせようとしてくるのです。その神様の用意する道から外れるようにするために仕掛けてくる罠を知ってほしいのです。私たちが陥りやすい罠は人それぞれ違ってくると思います。そしてその誘惑は方法を変えて、いつもいつも私たちに押し寄せてきます。その時に私たちは「自分のルール」「価値観」「常識」などで立ち向かわないということです。今までのように「責任転嫁する」「逃げる」というようなことでその状況から変化したとしても意味がありません。その都度、主に向きながら、共に進んでいくのです。たとえ失敗をしてしまったとしても、神様に悔い改め、そして自分と向き合い、原因を探り、同じように歩まないように向きを変えていくことができます。

私たちの歩みは・・・

私たちは失敗すると自分を責め、落ち込ませていきます。神様はそこから学び、次は同じようにならないように知恵と力を与えてくれます。ですから失敗はダメではないのです。より良くなるための「きっかけ」なのです。今までの歩みであれば、向き合うことができず、あきらめてしまったり、逃げてしまう人生だったかもしれません。そして相手が悪いと人に責任を押し付けるような人生だったかもしれません。神様はそんな私たちのためにイエスキリストを遣わし、十字架につけ、全面的な赦しを与えてくださいました。私たちは新しくなれるのです。ですから私たちは向きを変えていくために、主に向き、正しいことを知り、心に湧いてくる悪い声に打ち勝つていくとき、私たちは向きを変えることができます。そして私たちのいる場所はより良くなっていくのです。向きを変えて出発していきましょう。(要約者: 平澤 一浩)